

c-8) イシガメ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州の各県、佐渡島、隠岐、見島、対馬、壱岐、淡路島、五島列島等に分布²⁰⁾する。佐賀県内では佐賀平野、脊振山地、東松浦半島¹⁴⁾における記録がある。

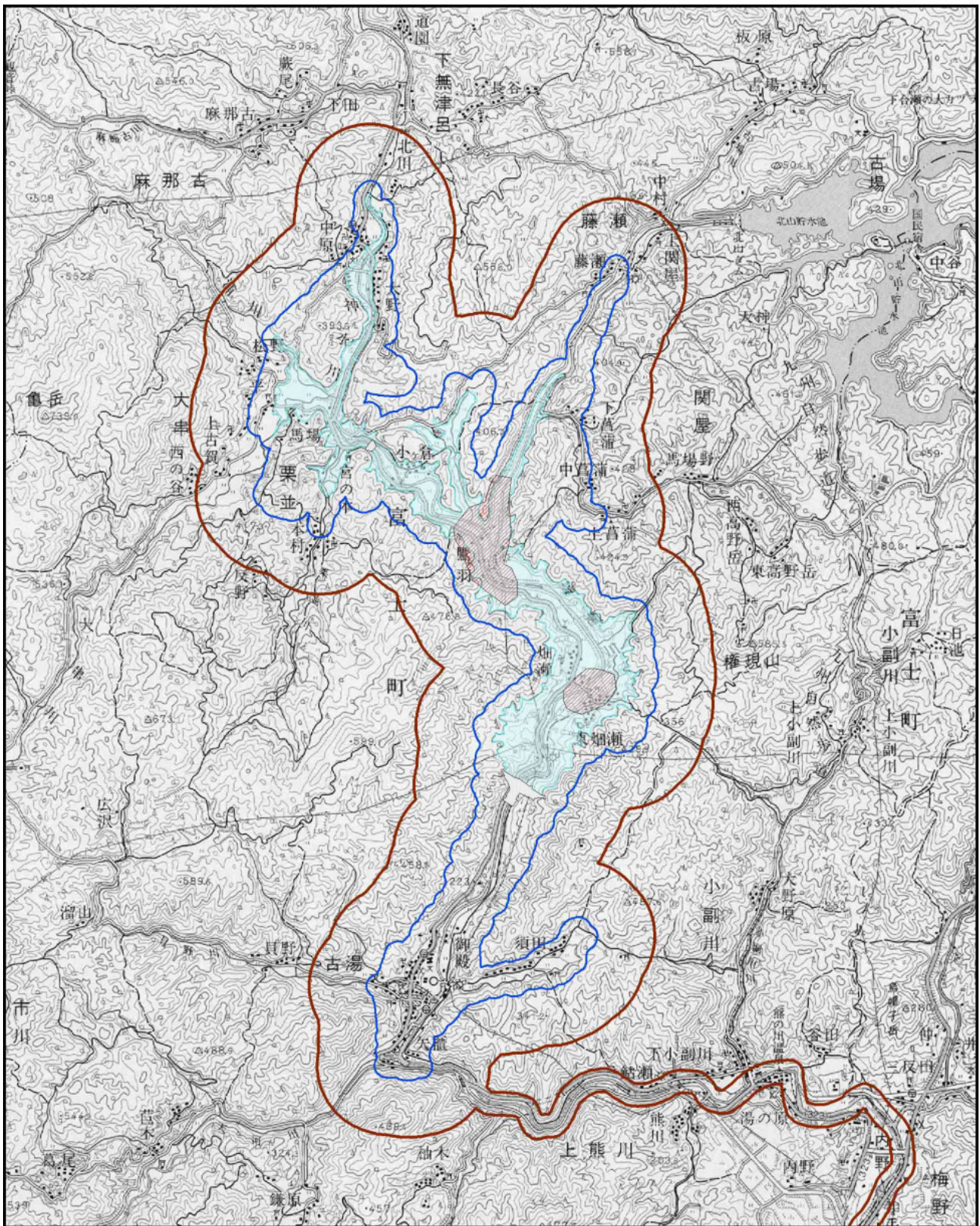
河川の上、中流域、山間や山際の湖沼、低湿地に生息²⁰⁾する。水中の横穴や淵等に堆積した泥の落ち葉の下で越冬する²⁰⁾。雑食性で藻類、水草、陸生植物の葉や果実等の植物質、水生、陸生の昆虫、小魚、魚の死体、カエルやオタマジャクシ、水生、陸生の巻貝、小型甲殻類等の動物質と非常に様々な食物を摂食する²⁰⁾。春と秋に水中で交尾²⁰⁾し、産卵は5月下旬～8月上旬²⁰⁾であり、年に1回～2回²⁰⁾行う。河川敷内の砂地、畑や畦、荒れ地等の乾燥した土の露出した場所で産卵する²⁰⁾。

iii) 調査結果


調査による確認地点を図 4.1.5-5(8)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度に川上川第三ダム下流付近及び畑瀬橋付近の河川敷において目撃された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、砂州、淵、ワンド等が分布する環境に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
- * : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-5(8)
イシガメ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

c-9) スッポン

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - (爬虫類・両生類)(環境庁 2000年2月)」³⁾に情報不足、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州、琉球列島に分布³⁾する。佐賀県内では佐賀平野、東松浦半島¹⁴⁾における記録がある。

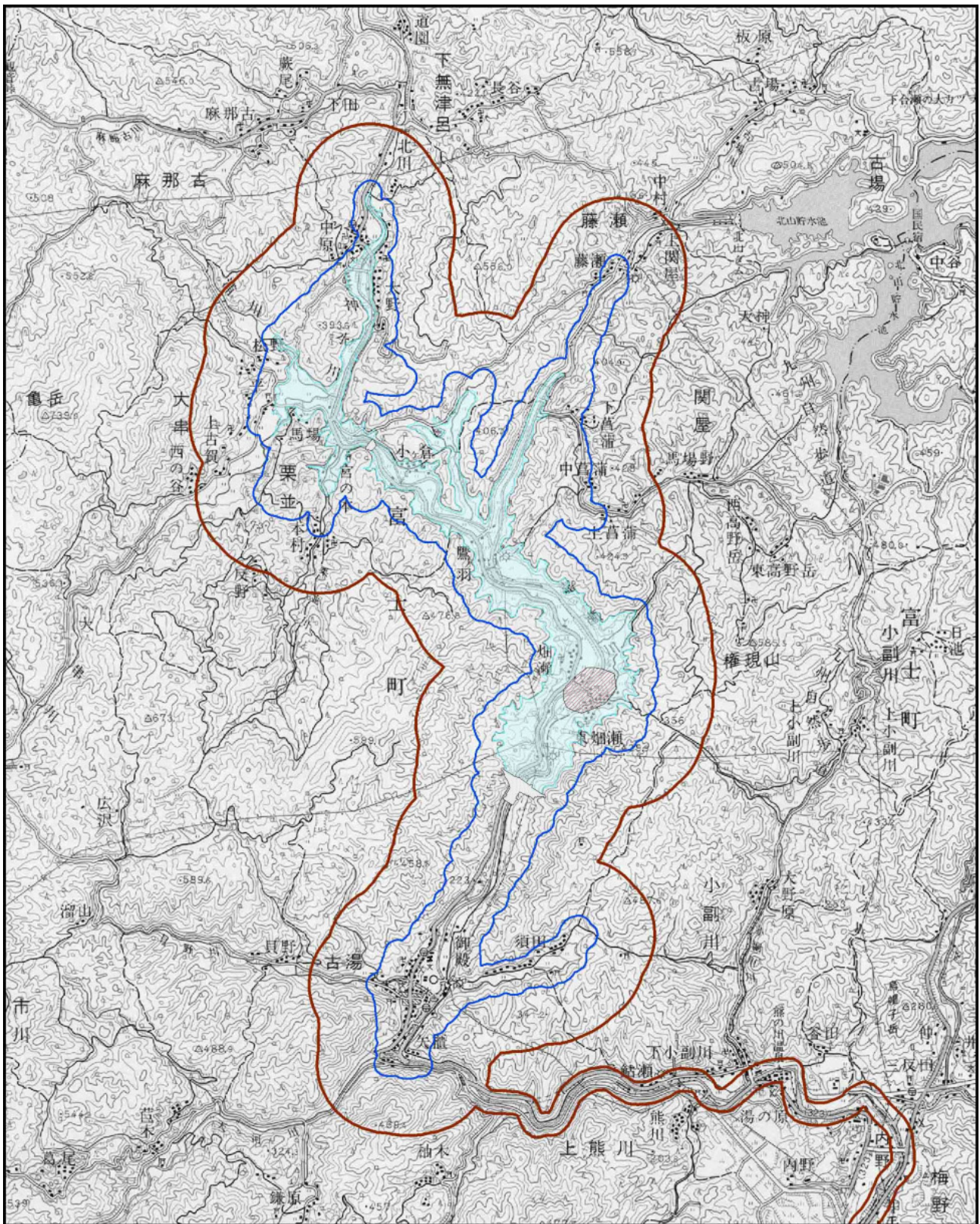
河川の中流域、大型の湖沼等に生息²⁰⁾し、主に底質が砂泥から成る止水やゆるやかな流れのある川を好む²⁵⁾。野外では貝類、甲殻類、水生昆虫、両生類等の動物質を摂食し、ほぼ完全な肉食と言われているが、飼育下では植物質も摂食する²⁰⁾。5歳くらいで性成熟し、春先に水中で交尾する²⁶⁾。5月～8月にかけて、陸地に穴を掘り、直径約2cmの球形の卵を産む²⁶⁾。1回に15卵～50卵、年に3回～5回産卵する²⁶⁾。卵は2カ月～3カ月後に孵化する²⁶⁾。水場から数mないし十数m離れた比較的乾いたきめの細かい底質の場所が産卵場となる²⁵⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-5(9)に示す。


本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度に畑瀬橋付近の河川敷において目撃された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、河床が砂や砂泥からなる緩流に点在して生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

 * : スッポン確認地点



1:50,000

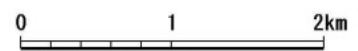


図4.1.5-5(9)
スッポン確認地点

* : この範囲内で確認した記録がある。

c-10) ジムグリ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州、国後、隠岐、壱岐、五島、伊豆大島、屋久、種子等の諸島に分布²⁰⁾する。佐賀県内では、佐賀平野、脊振山地、国見山、多良山地、東松浦半島¹⁴⁾における記録がある。

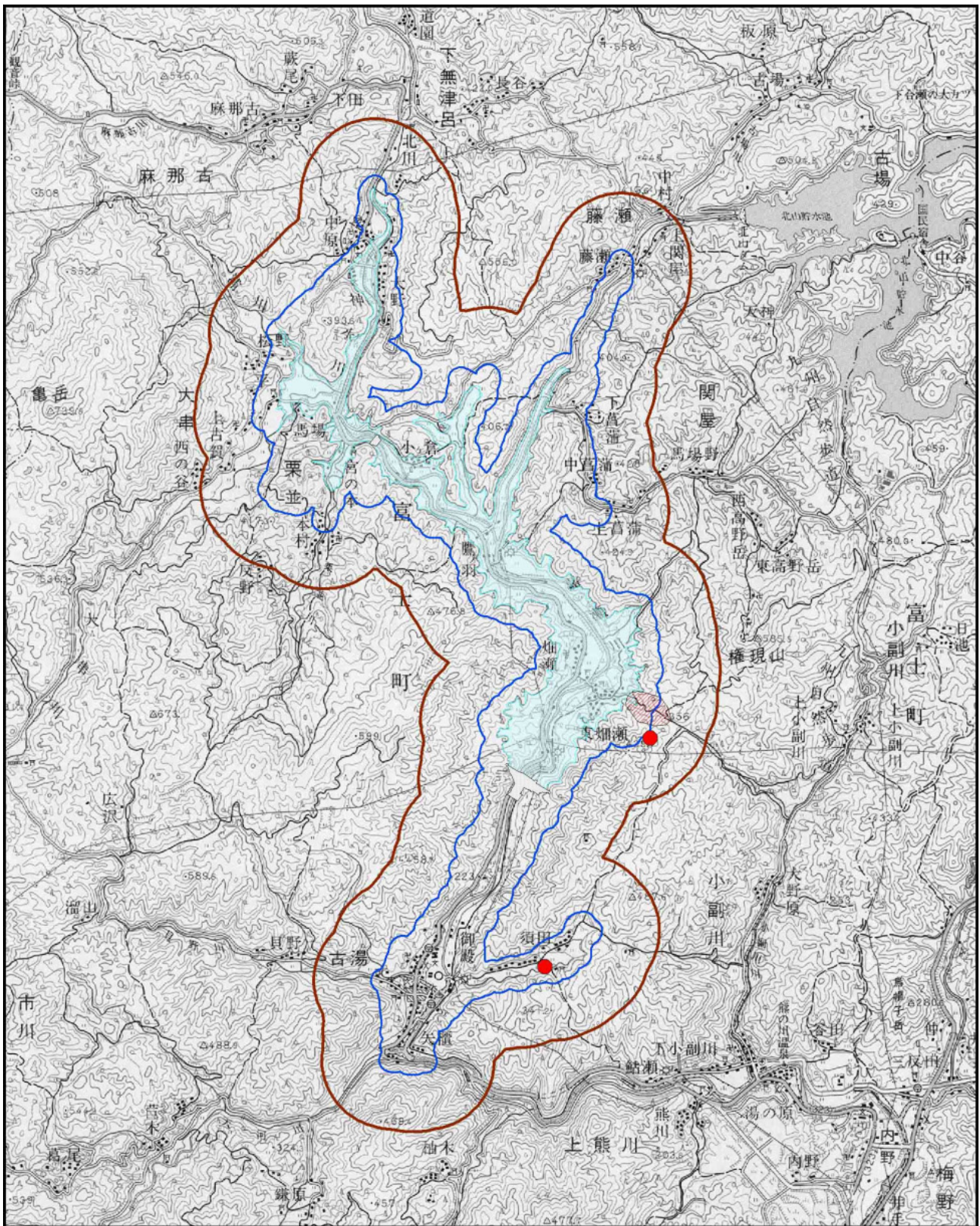
主に森林に生息²⁰⁾する。地中の穴によくもぐる²⁰⁾。ほぼ小型哺乳類だけを食べる²⁰⁾。平均体温は 24 でやや低温を好む²⁰⁾。夏には不活発になり、見ることが少なくなる²⁰⁾。飼育下でも春秋は大食するが、夏には摂食が細る²⁰⁾。4 月～6 月に交尾し、7 月～8 月に 1 卵～7 卵を産む²⁰⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-5(10)に示す。

本種は、昭和 60 年度及び平成 11 年度の調査において榎国有林内 1 地点、須田川の須田集落周辺 1 地点、合計 2 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に東畑瀬集落南東周辺において確認された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、樹林に点在して生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-5(10)
ジムグリ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

d) 魚類の重要な種

魚類の重要な種の確認状況を表 4.1.5-13 に示す。

表 4.1.5-13 魚類の重要な種の確認状況

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ	捕獲	平成 10 年度、15 年度
コイ	コイ	ニッポンバラタナゴ	捕獲、文献による記録	平成 15 年度
		カゼトゲタナゴ	捕獲、文献による記録	平成 10 年度、15 年度
	ドジョウ	スジシマドジョウ ウ小型種点小型	捕獲	平成 10 年度、15 年度
	ギギ	アリアケギバチ	-	-
ダツ	メダカ	メダカ	捕獲	平成 10 年度、15 年度
カサゴ	カジカ	ヤマノカミ	捕獲	平成 10 年度
		カジカ	捕獲	平成 8 年度
スズキ	スズキ	オヤニラミ	捕獲、文献による記録	平成 4 年度

注)1.アリアケギバチについては、平成 14 年度に嘉瀬川を中心に調査を実施したが、生息は確認されなかった。

2. - :該当する項目がないことを示す。

d-1) スナヤツメ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 4 汽水・淡水魚類(環境省 2003 年 5 月)」⁴⁾に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国と鹿児島県、宮崎県を除く九州に分布する²⁷⁾。佐賀県内では、城原川、田手川、多布施川、巖木川⁶⁾における記録がある。

本種のアンモシーテス(幼生)は川の中、下流のやわらかい泥底にもぐっている²⁷⁾。変態後、降海しない²⁸⁾。捕食もせず、成長しないで翌年の春に産卵す

る²⁸⁾。泥中の有機物や珪藻類を食べている²⁷⁾。産卵期は雪解け水の収まる 5 月～6 月で、直径の小さな礫底に集まって産卵する²⁷⁾。繁殖期は 4 月～6 月²⁸⁾である。

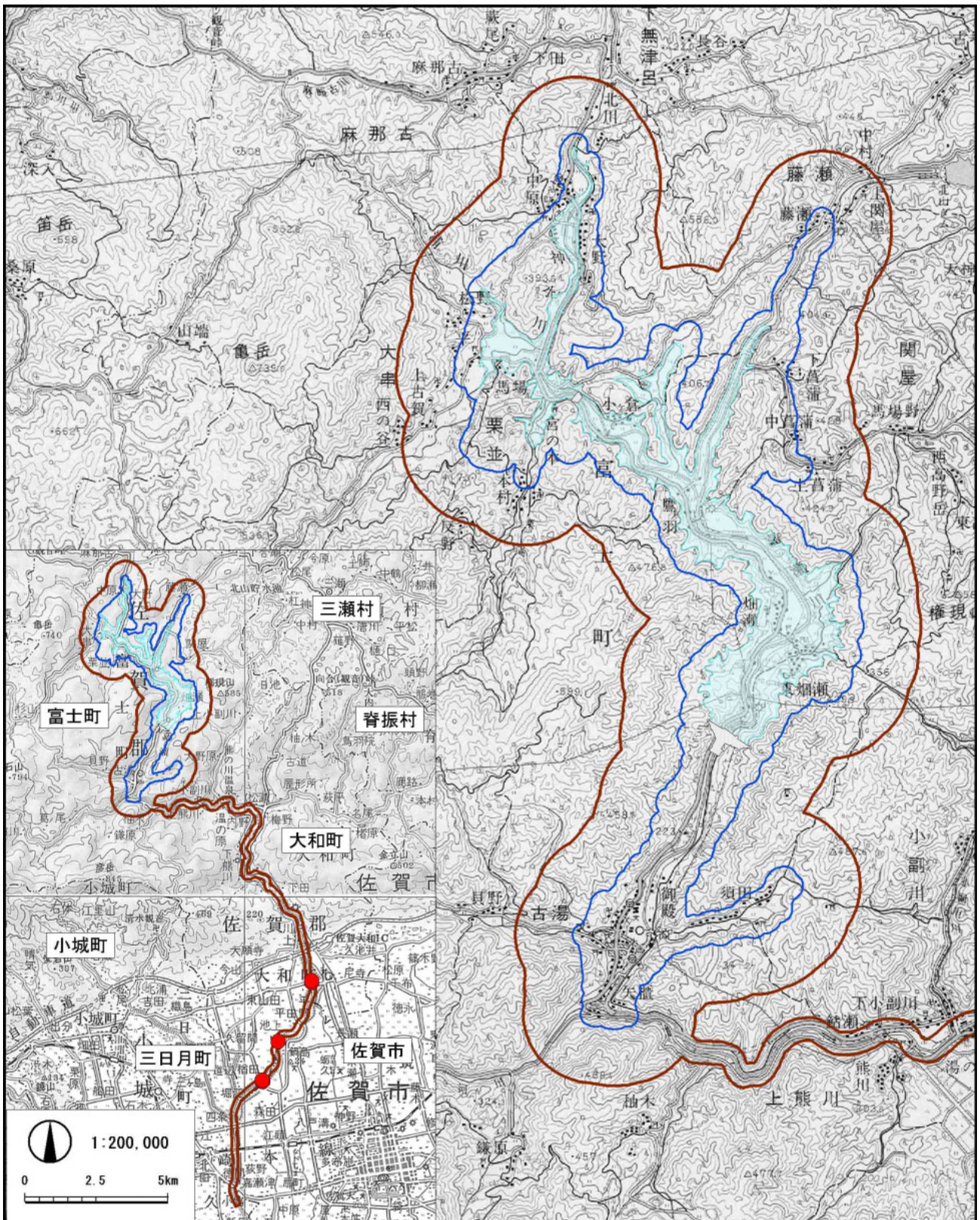
iii) 調査結果







調査による確認地点を図 4.1.5-6(1)に示す。

本種は、平成 10 年度及び 15 年度の調査において、嘉瀬川の名護屋橋付近 2 地点、池森橋付近 2 地点及び上流 1 地点、合計 5 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、河川の泥底のとろ及び砂礫底の平瀬であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に流れが緩やかな嘉瀬川の下流部に生息すると考えられる。



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水予定区域
 -  : 対象事業実施区域
 -  : 調査地域
 -  : 確認地点

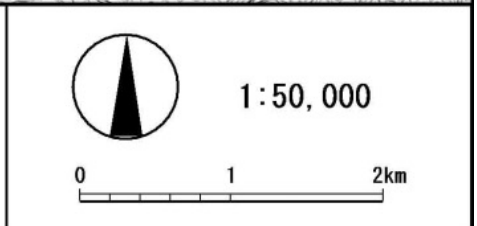


図4.1.5-6(1)
スナヤツメ確認地点